

# 国際協力



2012 新春号 | No.30 2012.1.1 | JICA駒ヶ根

## Contents

復刊のごあいさつ …………… 2	イベント・レポート …………… 3
東日本大震災と駒ヶ根訓練所 …… 2	長野県出身新ボランティア …… 4
OB・OGの職場訪問 …………… 3	行ってきました …………… 4

## 信州の技術<sup>を</sup> 途上国へ ～ 青年研修実施～

日本の技術や経験を学ぼうと、開発途上国からたくさんの青年が訪れ、秋の信州でそれぞれの専門分野の研修に参加しました。この研修は地域に根差した技術に精通した団体に、JICAが委託して実施します。“長寿県”“教育県”とも呼ばれる長野県には今年、保健医療と教育分野の研修員が訪れ、信州の風土が育んだ技術に触れるとともに、自国の発展に向け決意を新たにしていました。

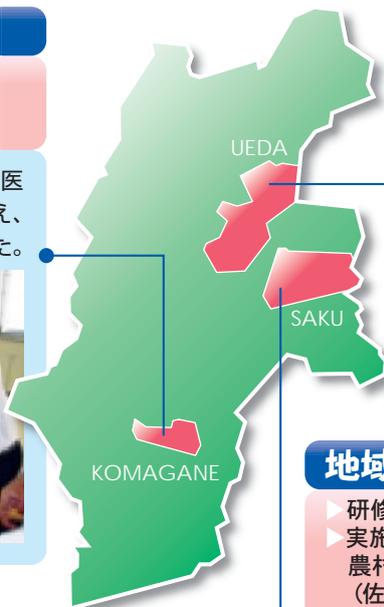
今年度、長野県内では3つの青年研修を行い、アフリカ（英語圏）、パキスタン、インドネシアから計39名の研修員が来日しました。

### 母子保健実施管理コース

- ▶ 研修対象国：アフリカ・英語圏
- ▶ 実施団体：駒ヶ根青年会議所（駒ヶ根市）
- ▶ 実施期間：9月5日～9月22日

アフリカ9か国12名の青年は、長野県内の医療機関や行政が実施する検診の視察に加え、学校や幼稚園などの教育機関を訪問しました。

母子保健の向上のため教育が重要であることを、多くの研修員が再認識しました。



### 初中等教育行政コース

- ▶ 研修対象国：パキスタン
- ▶ 実施団体：長野県世界青年友の会（上田市）
- ▶ 実施期間：11月1日～11月18日

パキスタンの教育行政に携わる研修員12名は、日本とパキスタンの教育制度の比較を通じて、多くの気づきを得ました。「今回の経験を自国の教育制度の向上に役立てたい」と研修員は抱負を語っていました。



### 地域保健医療実施管理コース

- ▶ 研修対象国：インドネシア
- ▶ 実施団体：農村保健研修センター（佐久市）
- ▶ 実施期間：11月19日～12月6日

インドネシアの地方の保健所などに勤務する医療従事者15名が、長野県の農村保健医療を学びました。



## 青年研修とは？

日本が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環で、途上国の国づくりを担う青年層を対象にJICAが実施します。20歳から35歳までの青年を日本に18日間受け入れ、日本における専門分野の経験、技術を理解する基礎的な研修を実施して、これら諸国の課題解決への取り組みに役立つ知識、意識を向上させることを目的とする事業です。

「信州発 国際協力」の  
復刊にあたって

JICA 駒ヶ根 広報報紙



JICA 駒ヶ根  
青年海外協力隊訓練所 所長

## 堀内 好夫

新年あけましておめでとうございます。  
JICA 駒ヶ根 青年海外協力隊訓練所の所長を  
しています堀内好夫と申します。昨年4月1  
日より訓練所長を拝命し、勤務しております。  
日頃は、私共の事業につきまして、地元長  
野県の皆様から大変なご支援とご協力をいた  
だいておりますことをこの場を借りてお礼申  
上げます。

さてこの度平成22年3月で一旦発行を終了  
しました広報紙「信州発 国際協力」を再度  
復刊することになり、皆様にお届けする次第  
です。

スピーディーな時代の変化に合わせて、本  
広報紙もメールマガジンに取って替えた訳で  
したが、やはり広報紙の良さも改めて認識さ  
れたことから、今後はメルマガと併せて発行  
することになりました。

JICA 駒ヶ根訓練所が県民の皆様により身  
近なものと感じられるような、そんな紙面作  
りを心掛けてまいりたいと思いますので、ど  
うぞよろしく申し上げます。

世界各地から震災支援のメッセージが  
続々と寄せられました。JICA 駒ヶ根の  
入口ホールにも掲示しています



# 東日本大震災と 駒ヶ根訓練所 ——被災地復興の力に——

2011年3月11日に発生した東日本大震災。未曾有の地震・津波被害が東北  
地方を襲いました。また、長野県北部でも地震が相次ぎ、栄村を中心に大  
きな被害が出ました。この震災に対し、一時帰国中の青年海外協力隊員  
やたくさんの協力隊OB/OGらが現地入りし、被災者支援を展開していま  
す。JICA 駒ヶ根も訓練を終えたボランティア有志を被災地に派遣する枠  
組みを整備するなど、できる限りの支援を続けています。

## 「一步を踏み出す」ことの重要さ

JICA 駒ヶ根 木下 佳信

駒ヶ根訓練所では平成23年度1次隊、ボランティア有志が  
宮城・女川町社協への募金活動に取り組み、また訓練後には  
70名超が「遠野まごころネット」の活動に参加し、ボランティア  
活動を行いました。

彼らの中には「日本にいる今だからこそ、何かしたいと思う」  
「任国に赴任し日本のことを聞かれたら、震災の現状を語れる  
ように、記憶に刻んでおきたい」という声が多く聞かれました。  
担当として陰で彼らの活動を見守るにつけ、彼らが活動任期を  
まっとうし一層たくましくなって日本に帰国したとき、必ずや日  
本の復興のリソースとなってくれるのではないかと、という期待  
がこみ上げ、この仕事に関わることができたことに対して素直  
に感動を覚えました。

今回の震災をきっかけに、より迅速に、あらゆる災害に対する  
支援を行う枠組みやそれを支えるボランティア活動の関心層  
が個人・組織の両者で増えたのはすばらしいことだと思います。  
しかし現実には、これから北国にとっては厳しい冬が来ます。震  
災直後や夏のがれき撤去作業とは違い、被災者が仮設住宅に

入ったあとの支援は、マンパワーだけで解決できない課題を多  
く含むでしょう。どうあるべきなのか…GWにボランティア活動  
を行った時からの疑問ですが、答えが出ません。

忘れてはいけないのは、日常被災地に思いをはせ、できる限  
りの関心をはらい、チャンスがあればもう一度東北なり各地の  
被災地へ足を運ぶための「一步を踏み出す」ことではないかと思  
います。協力隊募集説明会に出向き若者に対してよく使うこ  
のフレーズは、相手ではなく自分が自分に対しても投げかけて  
いる言葉なのだ、と発するたびに意識します。



▲震災支援に携わった協力隊員らをお招きして開催した「被災地でのボランティア活動を考える会」。今、何ができるか、何が求められているか、真剣に討議しました=4月

## — 信州で活躍する元JICAボランティア —

2年間の活動を終え、帰国した元JICAボランティアのその後を追う新コーナー。開発途上国で国際協力に携わった経験が、信州のあちらこちらでいかされています。その様子をご覧ください。

事にも共通すると語ります。

ラジオを通して作り手とリスナーが双方向につながり、さらに他のリスナーにもつながっていくことで、コミュニケーションの場ができる、それが制作者としてやりがいを感じる瞬間といえます。放送人としての明確なミッションをつかんだ小森さんは、ラジオの持つ更なる可能性を信じ、今日も番組制作に励んでいます。

SBCラジオのスタジオで▶  
現場に指示を出す



**こもり やすお**：1964年小諸市生まれ。1987年大学卒業後、信越放送(株)入社。報道記者、ラジオ・テレビ番組ディレクターとして勤務後、2003年に退社し青年海外協力隊に参加。2004年から2年間、パプアニューギニア国営ラジオ局イースト・ニュー・ブリテン州支局に視聴覚教育隊員として活動。帰国後、(株)ウェザーニューズ、軽井沢エフエム(株)にて番組制作、アナウンサーを担当。2009年から信越放送にてラジオ番組制作ディレクターとして勤務中。

## イベント・レポート

Event Report

### ▶ 信州グローバルセミナー2011

国際協力や国際交流、多文化共生について考える参加型セミナー「信州グローバルセミナー2011」を12月10日、JICA駒ヶ根で実施しました。県内外から集まった約150名の皆さんは、地域に根を張って国際協力を実践している講師の方の話に耳を傾けながら、活発に意見交換しました。

セミナーは、11の講座から2つを選び参加します。講師は県内で活動するNGOのメンバーや国際理解教育を推進する先生方。豊富な経験をいかし、参加者を巻き込みながら楽しく、わかりやすい講座を行いました。参加者の方は「とても楽しかった。同じテーマに関心のある人と知り合えたのもよかった。次回もぜひ来たい」と話していました。



### ▶ 第2回信州国際塾

10月22日～23日、「第2回信州国際塾」と銘打って、1泊2日で駒ヶ根市の訓練所とみなこいワールドフェスタを体験するツアーを行ないました。初日は参加者17名が訓練所を見学した後、派遣前のボランティアが学ぶ言語のレッスンや国際理解ワークショップを体験。夜は「地球のステージ」を観賞しました。

2日目はフェスタ会場で異文化料理や音楽を楽しみ、国際色に染まる街を満喫しました。



国際理解ワークショップ

### ▶ 帰国隊員知事報告会

11月25日、今年度帰国した協力隊員が、阿部長野県知事に活動報告を行いました。隊員代表として、金子あき子さん(セネガル派遣/野菜栽培)、長坂篤志さん(パプアニューギニア派遣/村落開発普及員)、宮國美加さん(バングラデシュ派遣/感染症対策)の3名が出席し、途上国での生活や活動の様子を報告しました。

知事からは、「長野県の青年たちが海外で活躍しているのは喜ばしいことであり、帰国後は地元の活性化にぜひ取り組んでほしい」とのコメントがありました。



# 長野県出身 新ボランティアのみなさん

行ってきます!!

長野県出身のボランティア計7名が1月下旬から順次、それぞれの任国へ出発しました。

①派遣国名 ②職種・指導科目 ③出身市町村



こじま まさき  
**小島 雅樹 さん**

①インドネシア  
②建築構造  
③長和町  
7年前のパナマに引き続き、今回はインドネシアで友人たちを作りに行きます。一人ではできないこと、組織ではできないことを行うつもりです。技術の緩やかな移転を心がけます。帰国したら体験を伝えたいと思います。

## シニア海外ボランティア



しおざき りょうじ  
**塩崎 良次 さん**

①ベトナム  
②渉外促進  
③上田市  
民間企業(メーカー)で国内外の商品開発などに携わってききましたが、定年を期にこれまでの経験を開発途上国の裾野産業の発展に役立て、両国の友好親善および相互理解の深化に貢献できればと思っています。



にしむら ひろし  
**西村 寛 さん**

①マレーシア  
②学校運営  
③佐久穂町  
任国マレーシアでは、長野の自然で培ったバイタリティを生かし、現地スタッフと協力し、業務活動を行い、確実な成果を上げたいと思います。今回が3回目の派遣になりますが、初心忘れずの気持ちで交流を深めて参ります。

## 青年海外協力隊



さいとう ゆり  
**斉藤 由莉 さん**

①ルワンダ  
②食用作物(稲作栽培)  
③長野市  
「本当に困っている人を見ていただけで終わりがたくない」という思いで、途上国開発のための農業を大学で学びました。赴任先では稲作栽培支援を行い、農業の分野から笑顔を増やすお手伝いをさせていただきます。応援してくれる皆様方と家族に感謝しながら、未熟者ながら真摯に元気に頑張らせて参ります!



こうづ ともみ  
**郷津 智美 さん**

①バヌアツ  
②小学校教諭  
③松本市  
海がきれいで世界一幸せな国とも言われるバヌアツ共和国に、2年間小学校教諭として派遣されることになりました。新卒で実務経験はありませんが、現地の先生たちと協力しながらその時自分にできる精一杯のことをしたいと思っています。世界中の子どもが笑顔になる活動がしたいという初心を忘れず、がんばってきます!



くどう ひろみ  
**工藤 裕美 さん**

①カンボジア  
②臨床検査技師  
③秦阜村  
カンボジアのコンポンチュナン州に、臨床検査技師として行ってきます。現職参加ですが、気持ちよく送り出してくれた職場の方々、応援してくれる仲間や、家族への感謝を忘れずに、元気いっぱい頑張らせて参ります。



かない ゆうじ  
**金井 悠二 さん**

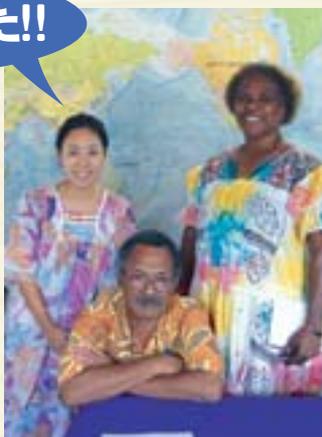
①ネパール  
②土壌肥料  
③伊那市  
ナマステ!農業分野土壌肥料部門でネパールに派遣されます。伊那谷は水が綺麗で農業が盛んです。そんな故郷を誇りに精一杯勉強させて頂きたいと思っています。農業が世界平和に繋がれば最高です。頑張らせて参ります!

行ってきました!!

あさかわ みか  
**浅川 美歌 さん**  
(長野市出身)

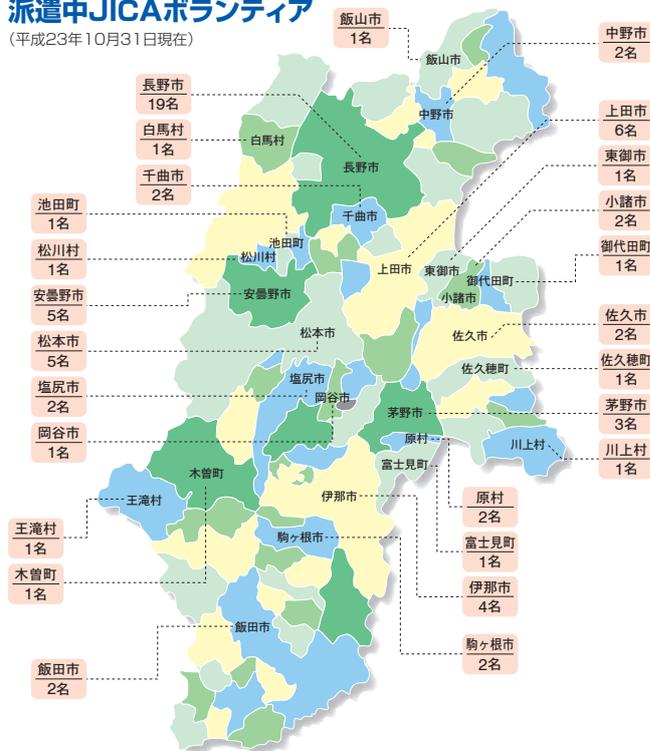
派遣国:バヌアツ  
職種:プログラムオフィサー

いろいろと悩むことも多くありましたが、カウンターパートや同僚に恵まれ常に挑戦し続けることができた2年間でした。今後はこれまでの経験を生かしてプロとして途上国の教育開発に継続的に携わることが目標です。



## 派遣中JICAボランティア

(平成23年10月31日現在)



## JICAボランティア派遣実績

平成23年10月31日現在

①青年海外協力隊員数	③日系社会青年ボランティア数
派遣中 57名 (内女性32名)	派遣中 0名 (内女性0名)
帰国 646名 (内女性299名)	帰国 17名 (内女性9名)
累計 703名 (内女性331名)	累計 17名 (内女性9名)

②シニア海外ボランティア数	④日系社会シニアボランティア数
派遣中 12名 (内女性3名)	派遣中 0名 (内女性0名)
帰国 38名 (内女性9名)	帰国 3名 (内女性0名)
累計 50名 (内女性12名)	累計 3名 (内女性0名)

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail jicakjv@jica.go.jp  
http://www.jica.go.jp/komagane/index.html

## JICA駒ヶ根 メールマガジン

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、よりよい情報をリアルタイムでお届けします。



配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp) までメールでご連絡ください!